

令和4年度第2回社会教育委員会議 会議録

1 開催日時 令和5年2月16日(木)午後2時00分～午後4時00分

2 会 場 山形市役所 7階 701AB会議室

3 出席者

(1) 委員 13名

阿部康子委員、荒井拓也委員、伊藤香織委員、牛木力委員、奥山竜士委員、加藤隼人委員、
渋間淳一委員、高見佳澄委員、新関徳次郎委員、星野みち子委員、矢口友理委員、山口由美委員、
吉野利明委員

(欠席2名：板垣恵一委員、丹羽英樹委員)

(2) 事務局 13名

教育長、教育部長、少年自然の家所長、図書館長、図書館副館長、社会教育青少年課長、
社会教育青少年課長補佐、課長補佐(兼)青少年係長、庶務係長、社会教育係長、
社会教育係員(3名)

4 傍聴者

(1) 一般傍聴者 なし

(2) 報道機関 なし

5 内容

(1) 開 会

(2) 教育長あいさつ

(3) 報 告

① 令和4年度「山形県社会教育連絡協議会表彰」受賞について

② 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰の受賞について

③ 令和4年度社会教育事業の実施状況について

(4) 協 議

① 令和5年度山形市社会教育の方針(案)について

② 令和5年度補助金交付団体について

(5) その他

① 来街者の増に向けた図書館中央分館及び中央公民館の魅力アップ事業について

② 本のひろば開設事業について

③ 「山形市二十歳の祝賀式」について

(6) 閉 会

6 資料の名称

令和4年度第2回社会教育委員会議資料

7 議事録

(1) 開会 (社会教育青少年課長補佐)

(2) 教育長あいさつ

※ 教育長よりあいさつ。

(3) 報告

※ (3) 報告から (5) その他にかけて、新聞代表委員が座長を担った。

① 令和4年度「山形県社会教育連絡協議会表彰」受賞について

※ 事務局より説明。

座長
委員

受賞した委員からひとことお願いします。

身に余る賞をいただきましてありがとうございます。7年ほどになりますか。今後とも誠心誠意がんばりますのでよろしくお願いします。

② 優れた「早寝早起き朝ごはん」運動の推進にかかる文部科学大臣表彰の受賞について

③ 令和4年度社会教育事業の実施状況について

※ 事務局より説明。

(4) 協議

① 令和5年度山形市社会教育の方針(案)について

※ 事務局より説明。

委員

今後の新しくなる方向性が入っていることがいい。私が利用している公民館は、1階の学習スペースを通る時、静かにするように言われることがある。①どのくらいの人数が学習スペースを利用しているのか②高校のボランティア部だけでなく、一般のボランティアを登録することで、ICTや子どもと遊ぶ場合良いのではないか。ボランティアサークル以外の一般の高校生を入れたりするのはどうか。

事務局

①中央公民館、東部公民館、西部公民館、江南公民館、元木公民館に学習スペースがある。北部公民館入口にある共用スペースも学習スペースとして利用している方もいる。使用状況は霞城セントラルの24階のmana-viを含むと、令和3年度は6万3千人、令和4年度は1月末時点で4万8千人、そのうちmana-viが4万5千人で利用が多い。西部公民館は年間3千人ほど。

事務局

今は照明が暗いとのこと意見もあるが、後ほど説明する中央公民館のリニューアル後は明るくなる。高校生から意見としては、暗くなく、辞書でなくスマホで調べるためのWifiや電源が必須との要望がある。仲間と勉強するためのテーブル席など高校生のニーズに沿ってリニューアルし、中央公民館でのノウハウを他の公民館へと広げたい。

事務局	②ボランティアの拡充については、高校の担当の先生に直接連絡して調整を図っている。今年度は南高の生徒から直接連絡がきて、南高ボランティア組織の立ち上げにも関わることができた。令和5年度より高校生を対象とした「まちなかサードプレイス」をスタートするが、それに先駆けたキックオフミーティングに今26名の高校生が登録している。「まちなかサードプレイス」に参加する高校生はボランティアを希望しているわけではないが、そのつながりを活用してボランティア活動の機会の周知も行い、高校生の中で口コミで活動が広がっていくことも期待したい。
委員	公民館職員が社会教育主事や社会教育士の資格を持っているかというところではない。公民館職員に1・2名いると良い。ハード面として、トイレを和式から洋式へ、質の良い音響設備を要望したい。
事務局	公民館職員の適正な配置については人事部局に要望している。職員配置後の人材育成は本課で行っている。各公民館で新規事業の計画を積極的に行う等し、実践を通じた人材育成を行っていききたい。
委員	リア塾の終了について、若者が企画することで地域での活躍を願った。こうした人たちにどう話して終結したのか。高校生が活躍する場、探究する場としたのは良い。中央公民館のがらんとしたイメージで街中なのにもったいない。七日町が見えるスペースに学生たちが少し集まるようになっていたのを活用しない手はない。西部公民館では、高校生が熱心に勉強していて静かにする必要があった。早めに照明設備を明るくしてあげたい。高校生は探究学習で様々な取り組みをしているようなので、高校生からの新しい知識や意見を取り入れたい。
事務局	リア塾は20代・30代を対象とした事業で「楽しみ」「仲間づくり」「自信」を持つことを目的として実施してきたが、今期で10年目を迎えた。次の年の講座のアンケートをとりながら企画してきたが、最近はマンネリ化の印象も否めなかった。毎年楽しみにしていて連続で参加した人も5～6名いて、「自宅と職場の往復の中で、リア塾が生活の張り合いになっている」という声も聞いている。参加者が固定化しても良くない。そこで、20代・30代は公民館で実施しているの若者支援事業へ一本化し、本課は対象と高校生として公民館事業との住み分けを図っていききたいと思っている。今期最終回では、リア塾が終わっても公民館で若者支援の事業は行っているの継続して参加することをお願いし、参加者からは理解を得ている。
委員	所属している青年会議所の会議で中央公民館を年3・4回使っている。プライベートでは何年も足を運ぶことはない。公民館でしか得られない情報があるわけではないからか。コロナ後の地域と公民館の関わりが大切。県の防災のボランティアセンターの立ち上げに関わったが、大雨で本沢川が氾濫した時、長谷堂のボランティアセンターがファアラで立ち上がった。長谷堂のことなのに他地区にあるファアラで会議を行い、長谷堂に戻る大変さがあった。各館と社会福祉協議会との連携の必要もあるか。
事務局	中央公民館は付近のマンション建設によって小さい子もいるファミリー層が増えたので、サービスのターゲットをそこに絞ることも考えられる。他の公民館も地域に合ったサービスを考えていく必要がある。そして何%かを地域に合った新しい事業を展開していくこと

を願っている。公民館でのボランティアは防災ではなく、高校生の考えを活かしていく。公民館施設の使用許可基準の緩和は良い。放課後子ども教室を推進することも大歓迎。ただ、先生方が激務のため、現場の先生方の負担にならないか心配している。

事務局 公民館施設の使用許可基準の緩和については、「もっぱら営利」の解釈について国や他の自治体を参考にして緩和を検討していきたい。放課後子ども教室については、これまで3校に限定して実施していたものを、市内全エリアで実施する形で子どもたちに体験活動の場を提供する。地域学校協働活動が進んでいないところのモデル事業として実施する目的もあり、地域学校協働活動の参考となるようにしていきたい。

委員 現在31校に地域学校協働活動推進員が配置されたが、推進員同士の横のつながりを持たせて、お互いの活動の共有や学びの視点を大切にしてほしい。高校生ボランティアを推進することはすばらしい。来てくれた生徒に対し「認定」のような形で成果を残すようにしてあげてはどうか。その活動認定をポートフォリオ的に大学へ提出したりすることで、モチベーションアップにもなるのではないか。「まちなかサードプレイス」について、全国の他自治体で世代交流ができるモデル事業が沢山あるので、是非参考にしてほしい。

事務局 「横のつながり」については、毎年、学校運営協議会委員と地域学校協働活動推進員の合同研修会や推進員の情報交換会を行っている。「まちなかサードプレイス」では、生徒の自主性を最大限に尊重しながら進めていきたい。どういう活動が生まれるかはこれから決まっていくが、高校生が街中で山形が元気になるような企画を我々は陰で支えていきたい。

委員 パソコンでの年賀状作成を教わりたく、中央公民館での講座に参加しようと思ったが日程があわずコミセンの講座に参加した。スマホの使い方や、マイナンバーカード、マイナポータルなどわからないことを全公民館で教えてくれるとありがたい。午後7時ごろ北部公民館で5・6人が一生懸命勉強していた。会議室のような環境ではなく、通りがかりの方に見られるような場所をあえて好む人もいるかもしれないと思った。

事務局 社会的要請学習は市民のニーズに沿って事業計画するよう指示をしていきたい。

委員 方針を示して公民館の在り方を変えていく必要がある。公民館の使用許可緩和は戦略的に実施してほしい。

委員 高校生への事業拡大はすばらしい。リア塾は出会いの少ない若者の貴重な活動の場として、終了は残念に思う。公民館の申し込みは、Web申し込みもいいが、使っていない親御さんもいるのでWebと電話・窓口などと併用してほしい。Webだと簡単なため定員オーバーになった場合、先着か抽選かの整理も必要。コミュニティ・スクールは保護者にはまだまだ浸透していない。各地区や各学校に体験の差がないようにしてほしい。

事務局 リア塾は終了になるが、公民館での若者支援に一本化し、社会教育青少年課としては高校生を対象とした活動支援を公民館と連携して行っていきたい。多様化したニーズと手段のマッチングを考えている。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について周知不足の解消のため、3月に市役所1階で各校の取組を周知するための展示なども行う積極的な周知に努めたい。

委員 日本と世界の若者を比較した時、日本は自己肯定感が低いことが課題。今回高校生に焦点を当て、高校生の意見を聞きながらの取り組みはすばらしい。サポートした側の自己肯定

	<p>感の高まりとサポートされた側のうれしさの相乗効果も期待される。山形の若い女性の人口流出に対するアプローチを考えてほしい。営利に関しては公平・公正が大事であるし、どう柔軟性をもって行うか応援したい。</p>
事務局	<p>「まちなかサードプレイス」の男女比は女子高生が多い。高校時代に地域に関わると愛郷心が生まれ、地元定着につながることもあると言われる。それを主目的としているわけではないが、地元定着につながればとも思う。</p>
委員	<p>コミュニティ・スクールの全51校設置はすばらしい。地域学校協働活動推進員はまだ31校配置となっており、機能するためには推進員の配置が大事であろうと思うので、あて職でなく地域に住む人、地域の教育資源を知っている人、各教育分野に精通した人が望ましい。一方で、未設置校は推進員の人選が難しいようだ。コロナによってこの3年、地域の人と教職員が飲食を含む交流ができなくなった。校長・教頭は2・3年で転勤するため、地域からの情報がないと地域学校協働活動推進員の人選が難しい。社会教育青少年課より情報提供やサポートをお願いしたい。学童クラブと放課後子ども教室の連携も進めてほしい。</p>
委員	<p>令和5年度の方針を見ると、少しずつ公民館が変わり開かれてきたと感じる。高校生が公民館の利用者となることも期待が大きい。公民館の役割としてニーズに合わせていくことが重要。単なる会議室の貸し出しではなく、人と人の結節点としての機能や人と人がつながり、次のステップを見つけられる場所としての公民館となってほしい。1才と3才の子がいるが、3才の兄には公民館は楽しい場所、子どもがワクワクする場所と教えた。</p>

② 令和5年度補助金交付団体について

※ 事務局より説明。

※ 「① 令和5年度山形市社会教育の方針（案）について」、「② 令和5年度補助金交付団体について」は全委員より「承認」を得た。

(5) その他

① 来街者の増に向けた図書館中央分館及び中央公民館の魅力アップ事業について

※ 事務局より説明。

② 本のひろば開設事業について

※ 事務局より説明。

委員	<p>中央公民館のリノベーションについて、「心地よい音楽を流す」とあったが、「心地よい」とは人それぞれの感覚があり様々な音楽があるので、慎重に検討していただきたい。</p>
----	--

③ 「山形市二十歳の祝賀式」について

※ 事務局より説明。

委 員	山形市を離れる前の高校生のうちに、成人となる18才でも山形市として何かお祝いする計画はあるか。
事 務 局	令和元年度に、山形市として「成人の祝賀式」を「18才」で実施するか「20才」で実施するか議論して、今後も「20歳」の年に式典を実施することで結論がでている。現時点で山形市で18才で何かするような想定はないが、各高校で実施している情報を集める等して、市としてすべきことはないか検討したい。
委 員	コロナ禍にあつてそこまでは至っていないと思うが、今後是非検討をしてほしい。
座 長	以上で座長を降りさせていただく。
事 務 局	議題は以上だが、その他何かないか。
委 員	ICTとも少しかかわるかもしれないが、今後は、会議資料をデータで送っていただけないか。
事 務 局	検討する。

(6) 閉 会 (社会教育青少年課長補佐)